

4年生学習定着度に関する調査結果について

本年度は9月に「学習定着度に関する調査」が実施されました。その結果とそれを受けた取り組みについてお知らせします。

調査の目的は、児童の学力の状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育の成果と課題を明確にし、学力向上の取り組みを充実させることにあります。調査の内容は、教科に関する調査（国語，算数）です。

○…よかった項目 ●…課題があった項目

【 国語：福岡市平均をやや上回っている 】

- 読むこと（文学的文章）
- 話すこと・聞くこと

読むこと（文学的文章），話すこと・聞くことだけでなく，言語についての知識・理解・技能及び読むこと（説明的文章）についても，大問の評価項目すべてにおいて福岡市の平均を上回っています。これまでの書く活動の充実，音読や読書活動，漢字への取り組みなど，学校・家庭での学習の積み重ねの成果が出ています。これからも取組を継続しつつ，子ども達のよさをさらに伸ばしながら，定着度を高めていきます。

【 算数：福岡市平均と同程度である。 】

- □を使った式
- かさ・長さ・時間，図形の性質，重さの量感
- 三角定規の角，三角形の特徴
- 折れ線グラフ

「□を使った式」は福岡市の平均をやや上回っています。また，「整数・小数の計算」「おつりを求める文章問題」「数の仕組みや構成」「あまりのあるわり算」「四角形」「はこの形」「垂直と並行」では福岡市の平均と同程度であり，基礎的計算および国語の読み取る力も大きく影響する文章題についてはよく定着できています。一方で，かさ・長さ・時間，図形の性質，重さの量感，三角定規の角，三角形の特徴，折れ線グラフに課題が見られました。計量マスや定規，分度器等，実際に操作して学ぶ単元に課題が見られたようです。もう一度操作を通した学習を振り返り，さらに今後は子ども達が課題解決意欲をもって取り組み，具体的操作をすることで，実感できる学習指導を通して，定着度を高めていきます。